

本日の岩国市福田市長によるKC-130空中給油機の先行移駐受け入れに係る発表を受けて市長コメント

現在、普天間飛行場に常駐する15機のKC-130空中給油機が移駐することになれば、目に見える形で同飛行場の危険性の一部が除去されるものと考えております。

17年前のSACO合意において、岩国市が同機の移駐受け入れを表明され、今回、福田市長のご英断の下、同機の先行受け入れを発表されたことにつきましては、宜野湾市民、沖縄県民の基地負担軽減につながるものであり、心から感謝申し上げる次第であります。

福田市長におかれましては、同機の先行移駐が岩国市民に及ぼす影響等について様々な意見を経て苦渋の御決断をされたことと御推察申し上げるとともに、同じく市政を預かる者として、その真摯な姿勢に対し、尊敬の念を禁じ得ません。

また、岩国市議会の皆様におかれましても沖縄の基地負担軽減に対し、多大なる御理解をいただき、重ねて感謝申し上げます。

普天間飛行場を抱える宜野湾市としましては、「市街地のど真ん中に存在する同飛行場が一日も早く閉鎖・返還されること」、それが最も大事なことであり、宜野湾市民の一番の願いであります。

この問題については、日米両政府が責任をもって進めていくべきものであり、市としましては、オスプレイをはじめとする米軍機による騒音や墜落の危険性を目に見える形で解消し、一日も早い閉鎖・返還を実現するよう、今後とも、強く求めてまいります。

平成 25年 12月 9日
宜野湾市長 佐喜眞 淳